

**「ガーデニングの需要はまだ増やせる」**  
～新ネットツールの用の現場から～

14:10  
}   
15:30

プロフィール

坂田誠氏：

「新しいネットツールの活用で需要はまだ創造できる」という持論プラス実践で、セミナー・勉強会に引っ張り尻。岐阜県庁をはじめとする官公庁・政治、企業、読売新聞、日経PB、雑誌DAIM、テレビ、ラジオ出演など多方面で活躍中。

谷本智子氏：

エクステリアCADソフトを中心に、web活用で需要創造するリック社の若手ホープ。生活大国イタリア在住5年。

講演概要

「農園芸の需要はソーシャルネットの活用が適している」が持論の坂田誠氏に対し、web活用で需要創造するリック・谷本智子氏が新ネットツールの活用をいかに需要創造に生かすか、ヒントを引き出します。

**ガーデニングの可能性について**

15:40  
}   
17:00

プロフィール

深井麗雄(ふかいよしお) 氏：

毎日新聞社で記者として30年余り勤務したのち、2008年から関西大学政策創造学部で教壇に立つ。趣味は25年前から始めたガーデニングとジョギング。

講演概要

花鳥風月の言葉が示す通り、日本人は日々の暮らしの中に花を取り込んできた。ところが現代はなかなかそうはいかない。なぜそうなったのか。

私がガーデニングの真似事を始めたのは25年前だ。大阪の郊外のニュータウンで買った小さな家の小さな庭でスタートした。その後さっぱり進化しない。原因はいくつかあるが、身近にプロかそれに準じる人間がいない、という要因が結構大きい。例えば今住んでいる家を購入した時、敷地の南側と東側の石垣(高さ2メートル、幅約50センチ、長さ合計40メートル)の改修して花壇にしたいと考えた。造園業者がもってきた工事の値段は400万円近かった。造園業者と私の間には致命的な溝があった。それを埋めることは可能なのか、などについて考えたい。